

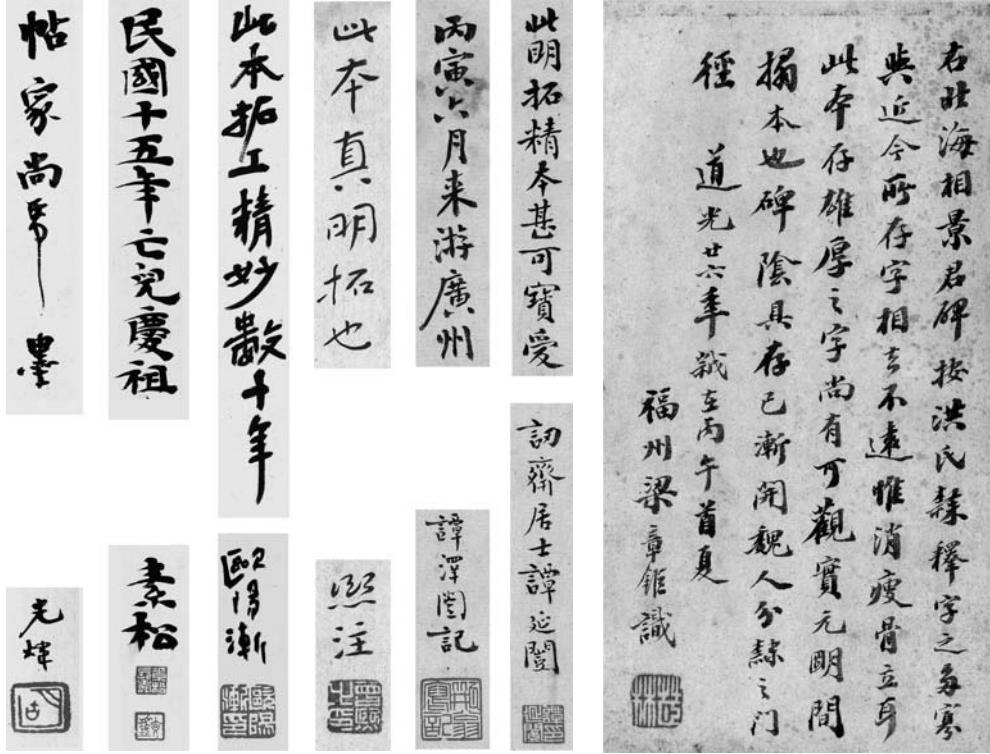
図版① 「曾熙題簽」



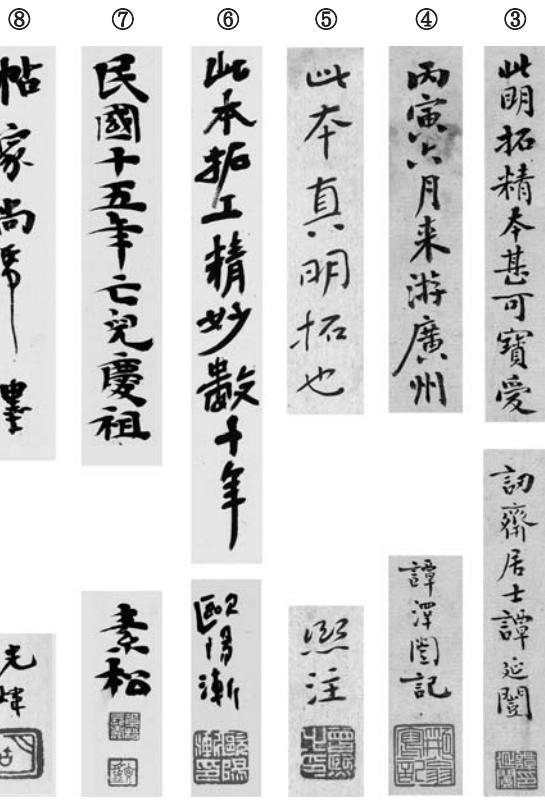
碑法帖拓本の題記・②

「北海相景君碑・旧拓本」

図版②「梁章鉅跋文」



「各家の題跋五種」



舟虛、黄埔軍校兵器教官のこと。
「熙」は曾熙、「署」は書に同じ。民
國年間の著名な曾熙が、ゆったりし
た隸書体で碑名を書き、吳榮光旧蔵
の拓が、文素松の有に帰したと行書
で小さく書いている。卷末には、梁
章鉅以外に、③譚延闐（1880～1930）字
は組庵、無畏と号した、中國国民党
や綏長である。波磔の美しい「乙」
瑛碑」「礼器碑」などは、字形がや
や横長であるのと比較するとその書
風の違いを見ることが出来る。碑面
の破損があり、近年学ぶ人はそれほ
ど多くない。碑陰はよく保存されて
文字の破損も少ない。ここに示した
のは、清朝後期の有名な收藏家・梁
章鉅（1775～1849）字は茝中、晩年は
退庵と号した）の旧蔵本であり、自
ら六行ほどの跋文を書いている。や
や重厚な楷書で、この拓が明
時代へかけての拓であると（図②）。
卷頭の題簽は、清末民国期の有名な
書法家・曾熙（1861～1930）字は嗣元、
農髯と号した。李瑞清と共に「曾李」
と並び称せられた）の書である。

「明脱景君碑」 吳荷屋中丞所藏舟虛
得之 熙署」とある。「脱」字は、
拓の意味であり、明拓の北海景君碑、
「吳荷屋中丞」は、清朝後期の有名
な金石家・吳榮光、「舟虛」は、民
國年間時代の文素松（1890～1941）字は

この欄に關する」批評、ご意見、
ご希望、ご質問などをお聞かせくだ
さい。私宛に直接メールで、また編
集部宛にお送りいただければ幸いです。
伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道藝術院 平成の群像 (2013)



2005年「国際現代書道展」(北海道札幌)にて『大賞』受賞“東山魁夷の文による”

この人の書を 西岡雨瑠



私は、詩文書の中で創る。書——それは、感覺と精神をつなぐ糸である。この道に入つて、たどりついたのは「素材」が「ことば」の清冽な情感——すべてであると考えている。根柢には、東アジアの歴史の中で、悠久の時を漢字文化が、そして日本の王朝かな文化が一体感として誕生した「詩文書」。しかし、私があえて書から少し離れた距離で考えていることがある。絵画の領域である。東山魁夷——日本画の巨匠である。彼の作品と、その清澄な眼の純粹さは、作品と同時に、その文章に、私は注目していった。心身の浄化の中で生まれる清らかな風景。自然美。展会場を何度も歩き、長野美術館にた

おわりに——書は人生である。書は生命である。古希を迎えた36年、師に仕え、書友に支えられ、この道をきて、この道をゆく。われひとりこの道をゆく。北限の極寒と豪雪のあと、美しい書の華が咲くことを信じながら。

どり着いた時、「自然とことば」に魅かれていた。書作の動機に達するまで長い時間要した。心打たれてゆく。祈り、合掌し、素材との「出逢い」に感謝した。作品を創る上において、素材らびが貴重なひとときである。十数年、心は魁夷の世界を書き続けた。今、北方の風は強く、音をたてて吹く。その過酷な自然条件の中で、生命の輝きを見失なうことなく、さがし求めしていく。眼は北にあり、磁針はいつも北を指す。今は、魁夷の美しさを追憶する。ゆっくりと終え、小樽出身の小説家、詩人、伊藤整を素材として追っている。詩集の大部分は、北海道の自然があり、「雪と緑」、「木は落葉松」。全く半年は雪。故郷と周囲について書く。それが彼の背景にある。「ゴロタの丘」に立ち、日本海を眺める。書とことばが合体する。一本の道につながる。何かを、見出す独特の魅力と気品溢れる詩文書に向かうために、深く執念を持ちたい。作品を創り出すエネルギーを、この地で頂戴したい。こころの書に出会うことに、感謝しながら、一つのことに取り組み、自分を信じたい。

書のひろば

理事長
辻元大雲

第65回毎日書道展本格的に始動

2月の運営委員会を受けて3月末には審査部・総務部ほかの副部長主任会議が開かれ、4月16日（火）午後事務局合同会議が開催された。会議の前に審査部副部長会議が再度、陳列部も副部長会議が設けられ、綿密な検討がなされた。合同会議では糸賀専務理事、石飛実行委員長ほか主要3部長から展示会運営に対する力強いあいさつと協力要請があり、全国から集まつた総務部委員、審査部委員、各展担当役員など合わせて500名あまりの事務局委員がそれぞれの部署に分かれて作業分担などを細かい打ち合わせが行われた。

フランス国立ギメ東洋美術館での「日本現代の書100人展」開催準備のために、4月21日夜羽田空港を離れ、4月26日早朝羽田帰着のかなり強行日程でパリを訪れた。一行は糸賀毎日書道会専務理事、辻元実行委員長、永守蒼穹実行副委員長、山中翠谷副委員長、丸尾鎌使実行委員、竹下享子事務局員、

「日本現代の書」¹⁰⁰人パリ展
事前打ち合わせ SHO-2

るかを確認、さらにマットや木枠の色の希望なども打ち合わせた。パリ市内北方の額装店「CADRE・EXQ 「UIS」主人ダニエル氏は見本に送つ

官は展覧会に向ひ協力を要請する。特に
にパリ市内の日本人会、教育関係への
広報などををお願いした。大使館側から
は全面的な協力をしたい旨返答あり。
午後ギメ美術館館長ほか幹部と打ち
合わせ。展覧会全般につき細部の打ち
合わせを行う。その後ワークショップ。
デモンストレーションなど教育プログ
ラムの日程などを確認した。10月から

24日午前、在フランス日本大使館表敬訪問。森川徹公使參事官・広報文化部長、濱島幸男広報文化部二等書記

やボスター、エサインの検討を行つた。印刷部数も今後早急に検討される。現地での購入が基本だが毎日書道会・新聞旅行社による予約購入申し込みを検討している。(書道会にまとめて送付していただき申込者に送付する予定、後日案内あり)

午後はギメ美術館にてカタログの編集打ち合わせ。前回のSHO1と同じくすべてカラー印刷、一人見開き2ページで構成、巻頭の主催者あいさつに続き日本側監修者辻元大雲実行委員長による「書の流れ=現代書の鑑賞手引き」(仮題) 小論、ギメ美術館学芸主任のバイユー女史による「書について」(仮題) の2論文が掲載される。表紙

た辻元大雲作6点をテスト装帧していく
ただいており、仕上がり具合や毎日側
の種々の要望に細かく応えてくださっ
て感謝。その場で各種材料店に問い合わせ
わせるなど対応はスピーディで具体的
であつた。

4月2日 11時

1月にかけ各月3日計12日間のプログ
ラムを行う。夕刻10月23日の祝宴会場
ホテル、ウエスティン・バンドームホ
テルを視察。



パリギメ展参観訪仏団企画

本展開催に合わせて書道団が書道庭体ごとに企画されており、書道芸術院でも10月と11月に団を結成して訪問する予定。参加者を募ります。

1月1日 2日 3日
ドーパリ(5泊7日)

B 10月19日～24日 パリ（4泊6日）
C 11月13日～19日 パリ（5泊7日）
計画中につき詳細は後日案内します。

漢字(二)

佐藤菜扇



佐藤菜扇書

対聯の形式に魅力を感じ、形を追つての作品制作が始まりました。この形式で勉強を続けたいと師匠の種谷萬城先生に相談致しましたら、対聯は約束事がいくつかあるのできちんと勉強した方が良いとご指導を頂きました。

対聯は他の文学形式と最大の違いが

「対仗」を重んじる。それは文字の数が同じだけでなく、句式(文章)相同、詩性(詩の性質)も相対を要求され平仄の決まりがあるということです。

まず、平仄(詩文の韻律)について。

対聯の上下聯は一句がすべて平聲または仄聲というわけにはゆかず、字の配列は平仄が交替しなければならず、それなりの規律があり、これを平仄式といいます。(ちょっとややこしくなります。)

ますが…)

李白の詩・「送友人」、第五句目と第六句目です。これは完全な対句になっています。そうです。(中国名詩鑑賞辞典より)(○・平聲

●・仄聲)

○○○●● ●●●○○

浮雲遊子意 落日故人情

律詩のきまりでは、第三句と第四句(前連)と、第五句と第六句(後連)は、それぞれ対句でなければならない。

対聯形式での書作で素材を求めるとき、律詩の前連、後連を見てみるのも一つの方法か

21世紀の書

—私の主張—

現代詩文書(二)

大平邑峰



昭和51年第29回書道芸術院展秀作賞

大平邑峰書

現代詩文書には、直接手本によるような古典や書式の決まり事のよなものはありません。古典を学習して書の大切なことを学ぶ、先人が残された書作品に触れる、漢字や仮名の作法を参考に作品様式を考える…など、書作のための手立てはあります。私が高校。大学生の頃は、まだなんでもあります。何かを見て影響され、頭のどこかに残った印象により、こよりや耳かきで書いてみたり、鄭道昭を生かしたつもりの墨で埋め尽くしたような黒々強い作品を書いてみたりと様々な表現にチャレンジしていたことが思い出されます。テーマをはつきりさせ、そのためにいろいろ考え、楽しみながら、時には苦悩しながら作品づくりしたことは、その後につながる経験になったのではないかと思っています。

ただ、当時は、素材についてのこだわり、思いが少し薄かったかもしれません。しかしながらとにかくオリジナルの作品を作るという姿勢は大事なことだったと思います。

第1、2回と昔話になつてしましました。書に取り組むきっかけや詩文書の世界へのように入つていったかの整理を試みました。次回は別の視点から述べみたいと思います。

第66回書道芸術院展続) (併催 第64回全国学生書道展)

特集：第66回書道芸術院展

実行委員長

大野祥雲

3年ぶりに東京都美術館で開催された第66回書道芸術院展(併催第64回全国学生書道展)については、平成24年3月18日開催の理事会、評議会に於て、その大綱が次のように決定されました。

○第66回書道芸術院展

1.会期 平成25年2月16日(土)

～2月21日(木)

2.会場 上野 東京都美術館

3.要項

ア.無鑑査、一般部の書類、作品の搬入 平成24年12月20日

イ.鑑別・審査 平成25年1月12日

ウ.審査員、審査会員候補の書類搬入 平成25年1月29日

作品搬入。平成25年2月8日

エ.審査、特別賞選考(審査会員候補) 平成25年2月9日

特別賞選考(審査会員) 平成25年2月10日

4.作品研究会 平成25年2月16日

表彰式 帝国ホテルに於て
祝賀懇親会 帝国ホテルに於て

5.出品作品サイズ、出品料について

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

15.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

運営委員長 辻元大雲

運営委員 飯高和子、板垣洞仙

後藤大峰、小伏小扇

小林琴水、小浜大明

砂本杏花、嵯峨大拙

滝 春芳、種谷萬城

名越蒼竹

大野祥雲

7.実行委員長 実行副委員長

小竹石雲、下谷洋子

千葉蒼玄

8.事務局長

東福青童

名越蒼竹

小伏小扇

山口仙草

白石和楓

陳列部長

会計部長

総務部長

審査部長

祝賀会部長

9.部長

10.審査員

11.審査員

12.審査員

13.審査員

14.審査員

は変更なし

6.運営委員会

特集：第66回書道芸術院展

委員長、実行副委員長2名。院展関係の各部長、全国学生書道展関係の各部長、院展・学生展共通の部長、事務局長、事務局次長・前田龍雲、三浦鄭街のお二人にも出席していただいた。

- ・第66回院展、併催の第64回学生展の部員と日程について確認した。
- 作品搬入 締め切る
 - ・一般公募出品数909点 昨年比174点減。
 - ・無鑑査出品数108点 昨年比23点減。
 - ・審査会員候補出品数759点 昨年比4点減。
- 審査会員出品数495点 昨年比11点減。
- 無鑑査・鑑別
 - ・一般公募と無鑑査作品の鑑別・審査が平成25年1月12日(土)共和会館に於て行われた。
 - ・無鑑査に対する院賞15名(漢5、かな1、現詩5、篆刻・刻字1、前衛3)
 - ・毎日新聞社賞5名(各部1)・特選120名・秀作298名を決定。
 - ・一般公募に対する準特選50点(漢15、かな5、現詩15、篆刻・刻字2、前衛9)・佳作149点・褒状344点、入选365点を決定。
- 審査会員候補に対する特別賞選考が平成25年2月9日(土) 都美術館地下審査室で行われた。

倉敷市の千田春月さんが輝いた。更に準大賞5点、白雪紅梅賞10点の受賞作を決定した。なお、大賞受賞の千田春月さん、準大賞受賞、漢字部成田市の須田瑞兆さん、篆刻・刻字部安曇野市の坪田鉄修さん、前衛書部遠田郡の中塩朱華さん、前衛書部高岡市の西岡悦子さん、かな部前橋市の山田静枝さん、白雪紅梅賞受賞、現代詩文書部むつ市の石下珠光さん、以上の方々は3月14日の理事会で審査会員への昇格が決定されました。今後の活躍を祈ります。

○審査会員に対する峰雲賞選考が平成25年2月10日(日) 都美術館地下審査室で選考委員8名によって行われた。

各部より20%の候補、更に1%に絞って全員投票の結果、前衛書部青森県の工藤永翠さんが峰雲賞に輝いた。

なお峰雲賞候補作品の中から推薦作家展(会場アートサロン毎日)に次の方々が選考された。前衛書部工藤永翠さん、現代詩文書部大隅晃弘さん、篆刻・刻字部大沼仙岳さん、漢字部種谷萬城さん、かな部前田まさ美さんの5名。同時に秋季展選抜作家60名も選考された。

○全国学生書道展

第64回全国学生書道展は、皆様方のご支援ご協力により、北日本文局から九州支局まで、全国の支局・総局から作品が寄せられました。今回の出品点数は、半紙の部が、一万五千八三六点、前衛書部までの5部門のトップ作を並べて最終投票。大賞には現代詩文書部

審査は平成24年11月8、9日の両日、中央審査員15名、A賞準備委員8名、A賞選考委員6名によって行われました。優秀作品が多く、一作一作じっくりと時間をかけての審査でした。その結果、全国学生書道展大賞をはじめ、A賞に輝いた方が、半紙の部で百名、半切1/2の部で30名でした。大賞、準大賞の作品は、入賞者成績表に作品が掲載されています。その他入賞者の氏名も掲載されています。都美術館には見応えのある作品が地区別に展示され、見事でした。

また、優れた作品を沢山出品して下さった団体の中で、全国優勝に輝いたのは、大阪府の「春洋会」でした。

○審査部

審査部は総務部、事務局との連携もよく、審査、事務処理とも順調に進めさせていただきました。出品作の多い漢字、現代詩文書部の委員の方々にはご苦労をおかけしました。名越蒼竹部長、尾形澄神副部長はじめ審査部の皆様にお礼申します。

○陳列部

3年ぶりの都美術館での陳列でした。改修前とは違つて展示室の拡大もありましたが、院展、全国学生展、指導者作品展の同時開催となり大変でした。山口仙草部長、伊藤懷舟副部長はじめ陳列部の皆様には遅くまでご苦労おかげしました。

○外部評論家の眼

記者会見後、今回は石飛博光全日本書道連盟副理事長・創玄書道会理事長、高橋利郎大東文化大学准教授の一人にお願いしました。

○記者会見

陳列作業の日(15日)午後3時から、毎日新聞社ほか報道関係・評論家の皆さんにお集りいただき記者会見を行つた。辻元大雲運営委員長が資料に基づき、第66回展では幹部推薦の10作家が大作(8×12尺)を発表したことの大作概要を説明。大野祥雲実行委員長、下谷洋子常務理事も同席した。

○記者会見の様子

記者会見の様子

毎日新聞社ほか報道関係・評論家の皆さんにお集りいただき記者会見を行つた。辻元大雲運営委員長が資料に基づき、第66回展では幹部推薦の10作家が大作(8×12尺)を発表したことの大作概要を説明。大野祥雲実行委員長、下谷洋子常務理事も同席した。

特集：第66回書道芸術院展



大賞受賞の千田春月さん

○高橋利郎の眼 千葉蒼玄、田中満子、
高橋潤、広瀬舟雲、後藤大峰 以上各
氏の作品を取り上げて下さり、短評を
いただき、作品脇に掲示しました。

○作品研究会

帝国ホテル富士の間に於て、峰雲賞
選考委員である園地会長をはじめ各部
委員によつて、スライド映写で解説が
行われた。漢字・小伏竹村、かな・下
谷洋子、近詩・小竹石雲、篆刻・刻字・
後藤大峰、前衛・板垣洞仙、浜谷芳仙
の各先生方が担当された。最後に辻元
理事長が総評を行つた。

○表彰式



多数の表彰式出席者

務理事の開会。

辻元大雲理事長の主催者あいさつ。
続いて、毎日新聞社事業本部長・広田
勝己様、全日本書道連盟副理事長・石
飛博光様、大東文化大学准教授・高橋
利郎様よりご祝辞をいただきました。

乾杯は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫
様のご発声で開宴。和やかな宴が続き
ました。そのうち

。評論家の眼の紹介があり、その後、
。恒例の入賞者紹介に移り、峰雲賞受
賞の工藤永翠さん、大賞受賞の千田春
月さん、以下順次壇上で紹介。よろこ
びのお声をお聴きしました。

閉会は小竹石雲常務理事により宴を
閉じました。

表彰式、祝賀会、係の皆さん方の誘
導のよさもあって、スムースに進行。
小伏小扇部長、麻生峰扇・佐藤葉扇副
部長はじめ係の皆様方ありがとうございました。
峰雲賞、大賞、準大賞は理事長より授
与。以下の各賞は財団の理事によって授
与されました。糸賀氏には毎日賞の
授与とともに激励のご祝辞をいただきました。

最後に受賞者を代表して、大賞に輝
いた、現代詩文書部・千田春月さんの
謝辞がありました。

○祝賀懇親会（2月16日5時30分開宴）
帝国ホテル孔雀の間を会場として行
いました。ご来賓（報道関係、評論家
のみ）30余名の方々をお招きし、総勢
600名のご参加をいただき、大野祥雲常

受付・整理、書類搬入の整理、審査準
備、撤回・搬出。学生展作品の返送作
業など大変でした。ベテラン委員の方々
によつて大過なく遂行していただきま
した。東福青草部長、小島孝予副部長
はじめ委員の皆様にお礼申します。

○会計部

院の台所を預かる会計部は全ての部
署との連携を保ち、陰の支えとしてご
尽力。膨大な予算を緻密な計算により
誤りなく処理していただきました。白
石和楓部長、東福青草副部長様に感謝
申し上げます。

○会場当番 陳列補助員の依頼

東京近辺の御社中の方々に、会場当
番と陳列補助員をお願いしました。急
なお願いにもかかわらずご支援ご協力
下さい、66回展が盛会裏に終了いたし
ましたこと深くお礼申します。

○運営事務局

本展運営の全てに関わり、膨大な事
務作業をコンピューターを駆使。事務
処理担当のリンクス社との連携を密に
して行っていただきました。各部の当
番審査員並びに委員の人数割出しに始
まり、出品個票の出力、搬入統計の集
計、賞の配分、審査結果の通知、陳列
計画、出品者目録作成、作品配置、祝
賀会座席配置など、総務・審査・陳列・
祝賀会・会計とあらゆる部署との事務
処理に関わっていただきました。

表彰式に先立つて、島谷弘幸博物館
副館長様の「博物館ってどんなところ？」
の表題で講話をいただきました。外は
寒い一日でしたが、心温まるお話をし
た。参列下さった皆さん方にとって、
印象深い表彰式になつたと思います。
○総務部
総務は学生展、院展とも搬入作品の

謝申し上げます。

千葉蒼玄事務局長 前田龍雲・三浦
鄭街事務局次長さん、陰のご苦労に感

評論家の眼

石飛博光の眼

漢字部

最首翠風

漢字部

小竹正高



・筆峰をからめて、線をじっくり沈潜させた。上部はやや密集しすぎか?下部は、隣の行との余白の組み合わせや、間のとり方に余裕があつて成功した。

・「鬼窟」の筆のからみや強弱のはたらきが見せどころ。出だしの「黒山」はややかくなつたか。残念だ。横画の長い線がギクシャクしてしまつたのがおしい。自然な展開を大事にしたかった。

漢字部

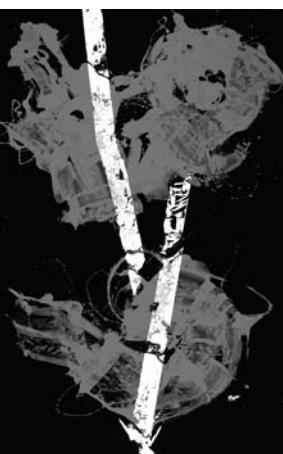
半田藤扇



・強弱太細のリズムの変化が大きなうねりをつくり出し、立体感を生み出した。スケールの大きな魅力いっぱいの世界を構成している。豊かな空気を感じさせてくれる。

現代詩文書部

大平邑峰



前衛書部

千葉蒼玄



現代詩文書部

坂本素雪

・直線構成の厳しい線。気力充実して勢いを貫通させた。2行めの「紺碧」はやや腰くだけか?細字で何とかさえたが: 私ならば、細字部分は、あと10cm下方に配置したかった。

・いつもながら意外性、斬新でシャープな感覚でたのしませててくれる。赤と黒、強烈。大きな二つの赤い塊に若干色の明暗の変化を加えたらどうだったろう。もとと立体感や奥行きが生まれたかもしけない。

・軽やかな筆さばきが線の艶っぽさを生んだ。空間を大きくシャープに切りさいて、大らかさの中にも緊張感を生んだ。ゆつたりとした余裕の運筆が魅力だ。



漢字部

高橋利郎の眼

広瀬舟雲



- 行き届いた神経が勢いのある筆を軽薄に流れないギリギリのところに留める。書道芸術院の現代詩文書の今日的であり様を象徴する一点といえようか。

現代詩文書部

扱いにくい金泥を見事につかいこなす晋唐の楷書を自己の内部に取り込み、借り物ではない確実な様式を確立している。公募展では数少ない伝統美が魅力。

田中満子



- 縦に気脈を通し、直線を主体にするものの、やわらかく、しなやかな表現が秀逸。数首の歌を大きな紙面に収めながら首尾一貫して破綻がない。着実な鍛錬が結実している。

かな部

篆刻・刻字部

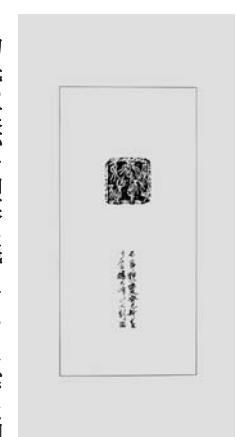


刃先の痕跡を如実に残している点では刻字の技法を石印に用いているようだ。文字が躍る印面の隅々にまで作意を徹底させる。香川峰雲の方法論を新たな境地に一步進めた感がある。

前衛書部

千葉蒼玄

時代が動く時に人の心が動き表現に置換される。宮城で暮らす作家は、昨年の「鎮魂と復活」にみられた執拗なまでの書き込みから、感情をむき出しにした表現に転換した。前衛的な表現のあるべき姿。



後藤大峰

「小林一茶の句」



辻元大雲

煌く日本の書 刻字と現代書 イスラエル展

会場：ティコティン日本美術館
会期：2013年1月26日～6月1日
主催：ティコティン日本美術館
日本刻字協会
AIACC国際書道文化発展協議会
後援：駐日イスラエル大使館
在イスラエル日本大使館
毎日新聞社

「風ひかる」



小竹石雲

「無為」
鳥山岳風

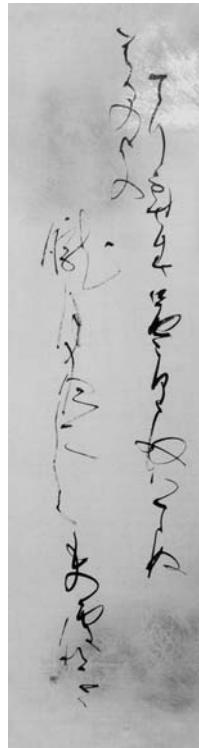


「酒匱」



小山鳳来

「臘月夜」



下谷洋子

「3・11復活」



千葉蒼玄

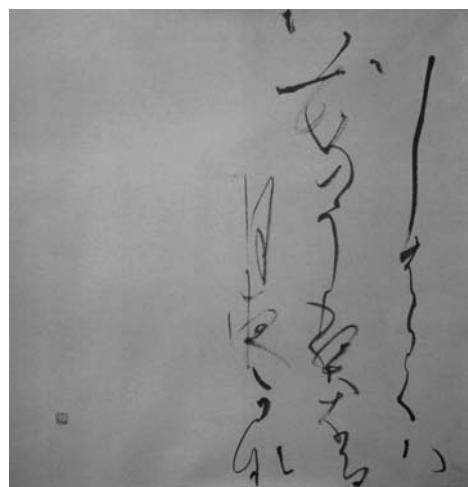
「純和」

後藤大峰



「芭蕉の句」

石井明子



特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

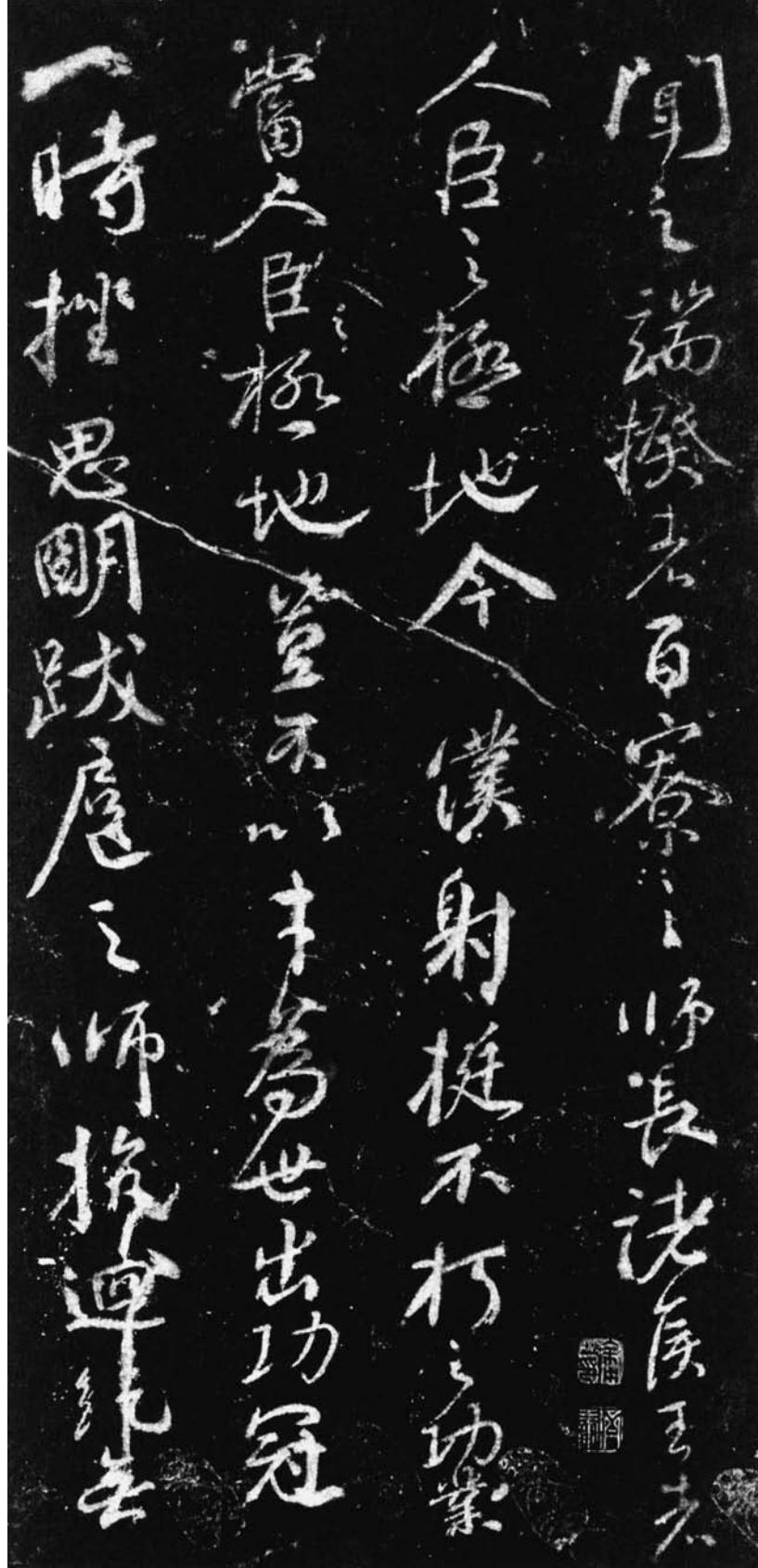
〈解説〉 争座位稿の原本は、北宋の時代に長安の富豪安師文（あんしぶん）が所蔵し、後に宋の内府に入ったが、それ以後の所在は不明である。刻本は数種あるが、閩中本と称するものが名高く、原石が西安碑林博物館にある。

真跡（実際に墨で書かれたもの）ほど臨書するのにわかりやすいものはないのですが、残念ながら現在では、争座位稿は拓本でし

か見ることができない。しかし、白抜きの文字の中に夢が広がる。はたしてどのような状況で書かれたのか、心情や時代背景はどうか、想像を搔き立てる。争座位稿について調べていくと、激しい抗議の書簡の原稿ゆえ、感情があらわになつた顏真卿の書きぶりが手に取るようわかる。大胆でスケールの大きな動き、粘り強く強韌な線質、自由闊達、律動的である。

（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)



(80%縮小)

聞之。端揆者。百寮之師長。諸侯王者。人臣之極地。今僕射挺不朽之功業。當人臣之極地。豈不以才爲世出。功冠。一時。挫思明跋扈之師。撫遲紇無

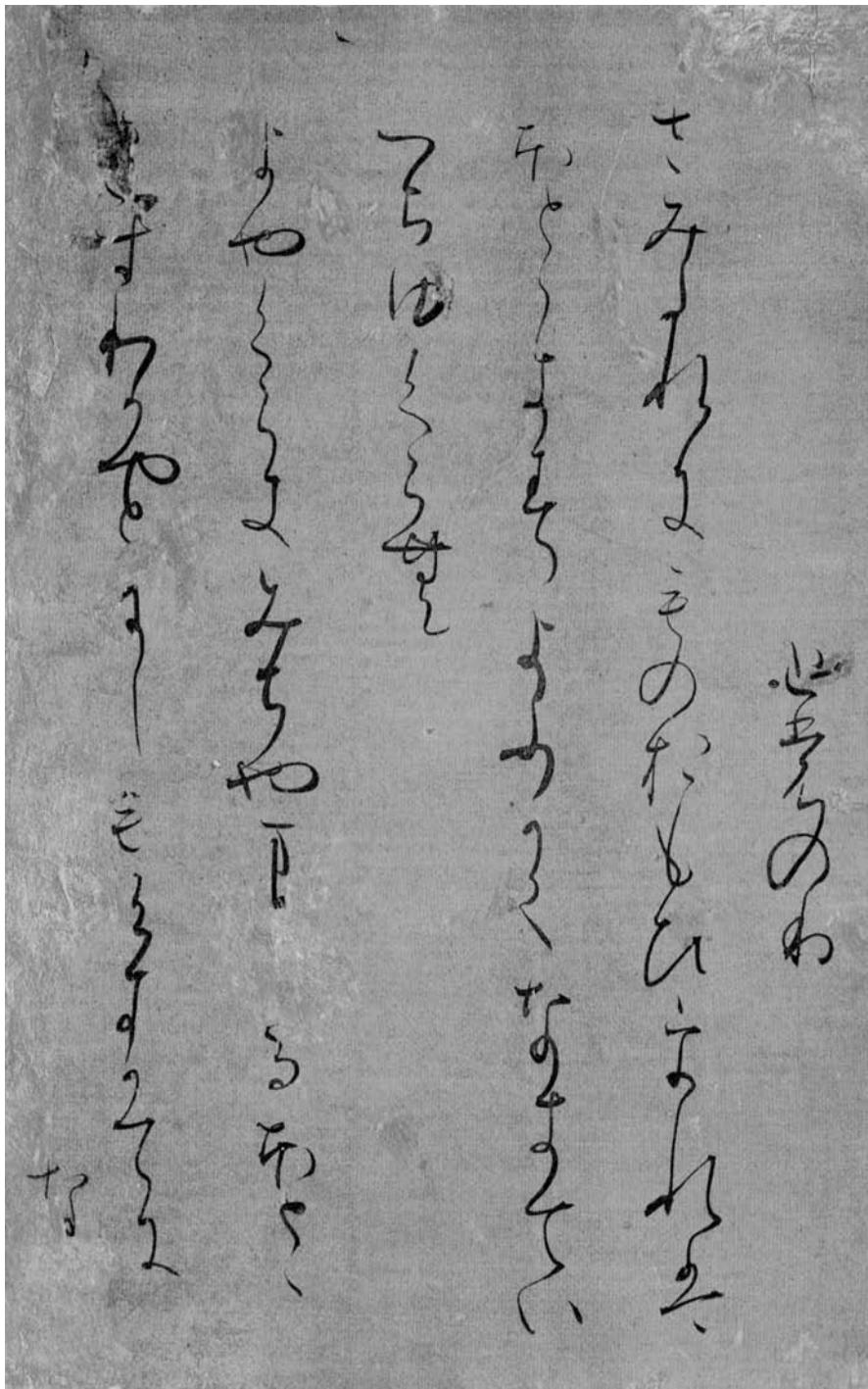
毎日展公募サイズ以内・縦横自由
左記の掲載以外も可

〈よみ〉
 さみだれに専毛とものり
 さみだれに専毛とものり
 ほとぎすよふかくなきてい
 づちゆくらむ可
 よやくらきみちや万
 ぎすわがやどにしもすぎがてにしもすぎ
 なぐく

〈解説〉 関戸本古今集の構成を見ると、料紙の色に合わせながら、例えば漢字の取り扱い方に主題の中心を置く・行の流れや行間の動きに重点を置く・運筆の速度が速く、筆圧の変化のはげしいところ・字粒が小さくデリケートな運筆の部分・秃筆による線の太い大胆な掠れの所など、多様なメリハリの利いた構成表現がされている。これは、筆者のその時々の感興によるものと思われる。

(注)秃筆とは、筆尖が擦り切れてしまった筆。

(90%縮小)



=注= かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

・落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

・用紙は半紙普通判(料紙可)〈たて長に使用〉

別紙を裁断して貼付も可。

半懷紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

習い方解説 (二)

小竹石雲

草木萌動
(草や木が芽ぶきだす)
(鍾惺)

生き生きとした自由闊達な表現で書作してみました。

書風は明清の個性的な行草体で一気呵成にスピード感のある調子で緩急の変化をつけて書いてみました。

そのため文字の大小、線の太細墨の潤渦の変化を十分つけてみました。

気をつけた点

・浮薄な線にならないように筆先是立つように心がけました。

・相対する字、「草」と「動」は大きく縱長にし、「木」「萌」は少し小さめに納めてみました。
墨の入れ方にも工夫して明るく生彩感のある作品にしてみてください。



草木萌動

よみ
(草木萌動)

書体=自由

習い方解説 (二)

東福青竜

身寧(しんねい)神恬(じんてん) (白楽天)

身さえ安樂ならば心は自然にしずかである。

前回の虞法に比べ、やや背勢の結構である歐陽詢の書風を参考に致しました。

引き締まり、力の漲った直線的な強さの書です。又、横画や縦画に弛みがなく、凜とした厳しさと構築性で、安定感があります。

九成宮醴泉銘・皇帝誕碑・化度寺塔銘等からは、筆力の強靭さや厳しさを学びましょう。



身寧神恬 よみ(身寧ければ神恬) (身寧ければ神恬)

書体=楷書

習い方解説 (二)

大辻 多希子

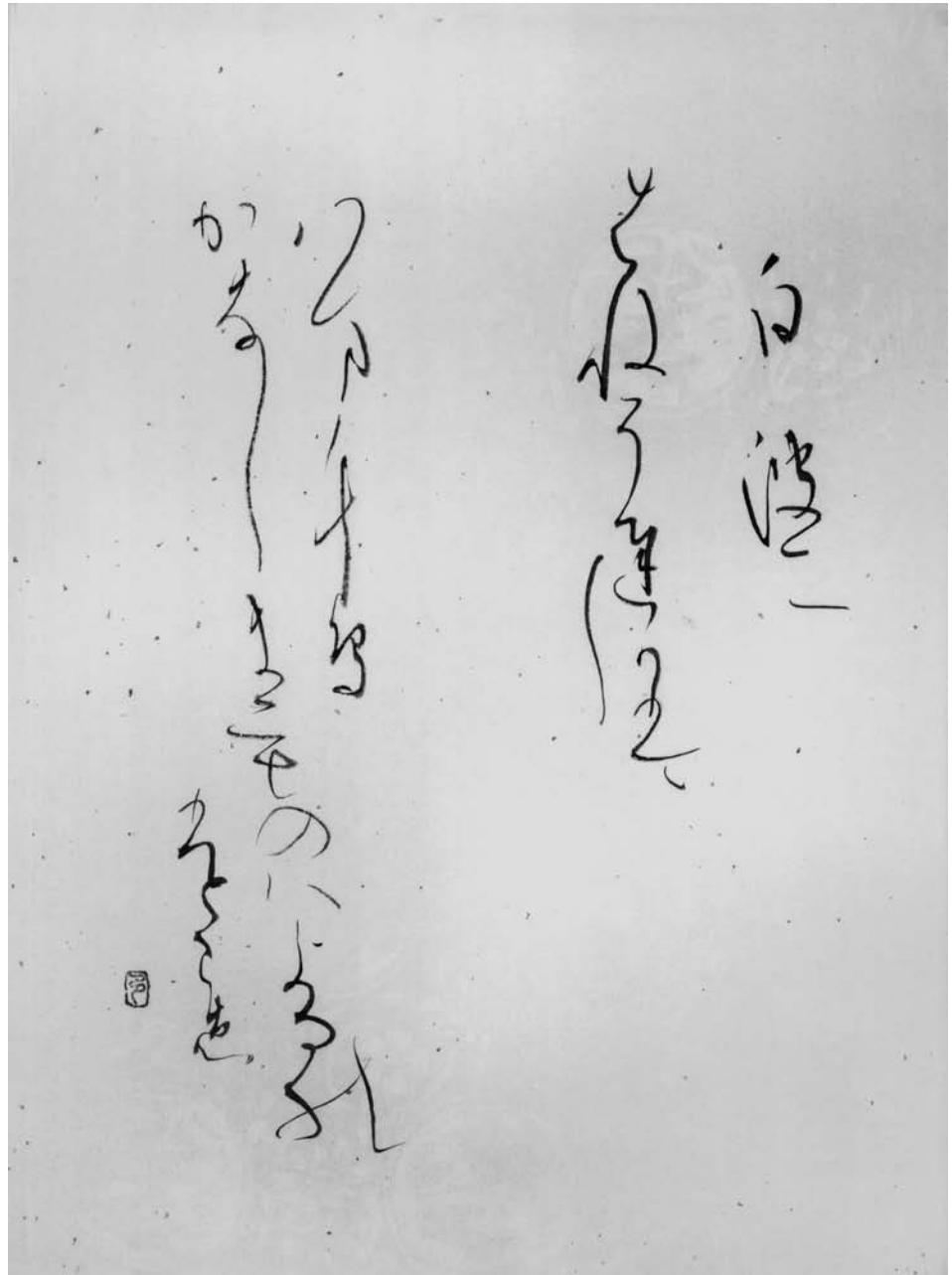
白波にはねうちかはし漬千鳥
かなしきものは夜のひと聲

(新古今和歌集)

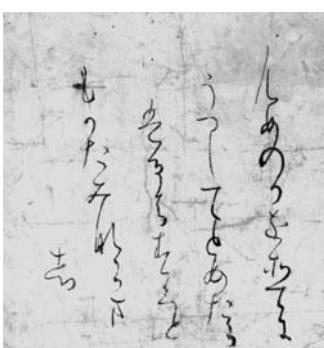
かなの特徴のひとつに、連綿の美しさがあります。かなは、文字が簡素なだけに、文字を書き連ねていく連綿によってさまざまなりズムが生まれます。同じ言葉でも字母、字源の異なる文字を用いることで、いくつもの表現が可能となります。

流麗な美しさを表現するには、急激な文字の大小は不自然になります。自然感を大切にしながら行の流れを作るよう心掛けましょう。古筆の中から好きな個所を選び何回も繰り返し臨書をするのも、連綿を学ぶ良い方法だと思います。

例 寸松庵色紙



創作

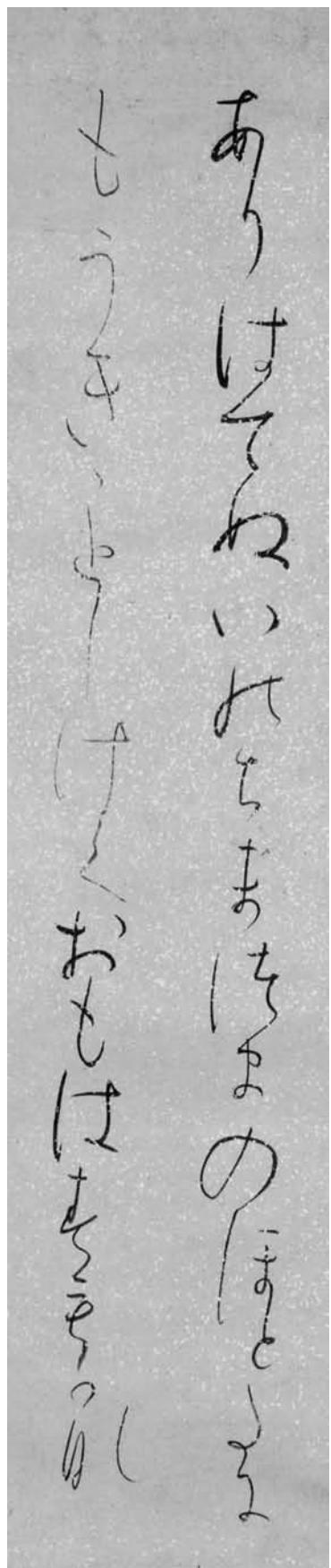


よみ方 白波には(者)ねうち(運)か(可)は(盤)しは(八)ま(万)千鳥
かな(奈)しき(支)も(毛)のは(八)よるの(能)ひ(悲)とこゑ

かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 ありはでぬいの(能)ちまつ(徒)ま(末)のほどだ(多)に(尔)
もうきことしげく(久)おもはず(春)も(生)が(可)な(那)

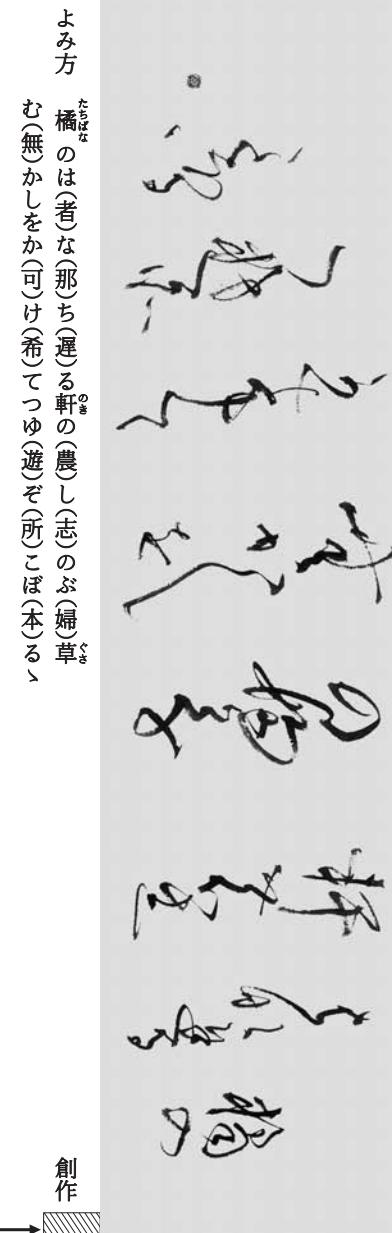
習い方解説 (二)

木村東舟

たなな
橋の花散る
軒のしのぶぐさ
昔をかけて露ぞこぼる

(新古今和歌集)

橋の花が散る軒に生えだしのぶ



かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

創作
出品券
貼付位置

橋のは(者)な(那)ち(遅)る軒の(農)し(志)のぶ(婦)草
む(無)かしをか(可)け(希)てつゆ(遊)ぞ(所)こぼ(本)る、
生まれます。終半は徐々に沈める
ように書きましょう。印の位置も
大切です。参考にして下さい。

*よいに形式に限る

村山元信

細雨湿衣看不見
閒花落地上聽無聲

玄仲書

細雨濕衣看不見
閒花落地聽無聲
(細雨衣を湿して看れども見えず／閒花地に落ちて聽けども声なし)
(劉長卿「別嚴士元」)

書体＝自由

松竹水聲涼

龍雲書

書体＝自由

漢字条幅規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

前田龍雲選書

習い方解説 (二)

前田龍雲

今回も初心者が学書しやすい、
漢時代の隸書を参考手本にしてみ
ました。基本的には、形は横長方
形で筆の先が線の中心を通る円筆
(藏法)です。単に形だけを意識
すると面白くないので、速度を調
整して線質に変化をもたせ、動き
やリズム感のあるものにしてみま
した。

意味は「青い松に翠の竹、水の
声はとりわけ涼しい」です。

松竹水聲涼
(松竹水聲ともに涼しい)

引き続き別の句になってしま
いました。以前、ある美術館の館
長から頼まれて揮毫した句です。
この二句がみごとに表現する情景
はまさに“絵”だと思います。そ
の時の表現は行草でしたが、今回
の参考例は行書单体で書きました。
目に浮かぶ情景をいかに漢字の書
作品として表現し、詩の世界と重
ねられるか工夫するのも勉強。

習い方解説 (二)

川島舟錦

うさぎ追いかぬ山

い釣りかの川

夢は今もめぐりて
それがたきうさぎと

舟錦書

漢字は少し大きめに。ひらがなは、少し小さくするとまとまりやすいですね。

高知の山奥で生まれ育った私は、幼い頃、祖父と谷川で魚を釣ったり、山で鳥を捕まえたり。父は、大きな蜂の巣の、甘い甘い蜂蜜を、幼い私になめさせ目を細めていた、あの味…ほとんど口にはできなくなつたけれど、今なお覚えているから不思議です。そんなこんな…幼い頃や遠い故郷のことを想いながら、楽しく練習しましょう！

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

木一ノ作品 各部総評

No. 623



現代詩文書部 特選 日井 真理

ペン字部 師範 佐藤 麻美
楷書・行書表現が多いペン字部
門で小気味良いリズム感溢れる草
書作品。

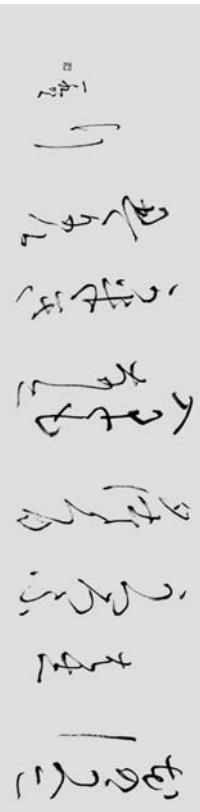
◎ペン字部総評 構成は比較的良
かつたが、全体の流れ、伸びやか
さにもう一息という作が多い。鉛
筆の線は消すように。(鄭雲評)



かな条幅部 三段 長島 一水

かな条幅部 三段 長島 一水
理解しつつ丁寧に書き、この姿
勢が貴い。今後は転折での筆の当
たりを軽やかに、リズムに慣れたい。

◎かな条幅部総評 変体かな奈
盈に誤字が多くた。横形式はバ
ランスが難しいので、参考手本を
充分に咀しゃくしたい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 熊谷 桃華

草書の字形が適確で筆路が明確。
不斷の学書の成果が窺える。筆勢
もあり、潤渴の表現も美しい作。

◎漢字条幅部総評 書の創作は、
着実な古典学習の延長線上に。
綿密な文字調べをし、毎月の学書の
質の向上を期待します。(萬城評)

前衛書部 特選 土屋 光輝

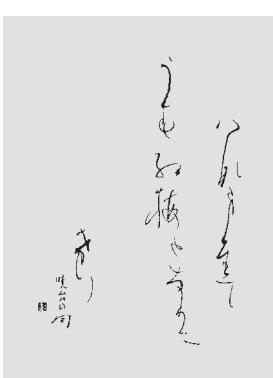
重厚な運筆で潤渴のバランスも
よく、迫力のある剛快な作となっ
ており紙面を圧倒している。

◎前衛書部総評 作品数が増え充
実しているが、墨、紙、筆につい
て今一度工夫されたい。(仙草評)



かな部 師範 小川 彩香
抑制の利いた筆致が、太細、遅
速、潤渴の変化を生み、リズム感
と相俟ってモダンな作に結実した。

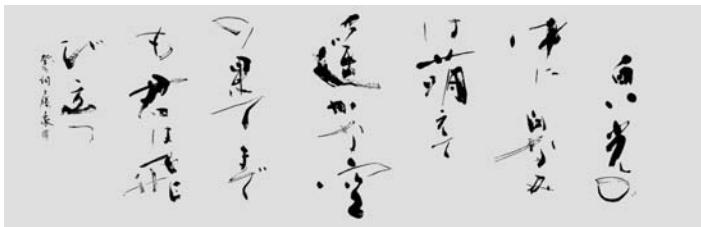
◎かな部総評 字が小さすぎる作
品が上級者にも多く残念。テキス
トからの拡大は慣れましよう。作
品の汚れ禁物、要注意。(明子評)



漢字部 師範 土屋 恵仙
のびやかな筆致の木簡風で、リ
ズミカルな中に爽快さを醸し出し
ている。明るさと軽快さがよい。
◎漢字部総評 書の学習の基礎は
古典臨書で培う。この基礎力を充
分身につけ創意工夫につなげたい。
競書の練習も又然り。(大雲評)



今月の 特別研究部優秀作品(特選)



西川藤象書

56×175cm



前衛書 (玄象) 大鹿洋江
「明日へ」

大鹿洋江書

180×60cm

(元信評)

◆線の動きが墨たまりの変化によって動きに迫力を与えている。印の位置が切角の余白をなくした感じ。

(倫子評)

◆紙にくい込む墨、動き豊かな線、紙面を構成する何ともいえない見事な配置、学ぶこと多い。

(元信評)

漢字 (墨宣) 小林翠芳

「元好問句」

◆筆先の鋭さが動きと共に表わされている。紙の白さに墨が浮き出すようで魅力的な作品。

(倫子評)

◆日頃の鍛錬の成果が紙面に漲り充実している。更に、奥行き書きなどを感じさせる作品づくりを期待。

(元信評)

◆手のうちの仕事を心にくいばかりのテクニックで仕上げた。筆力の強さは「歎」の点が物語っている。

(翠風評)

◆バランスのよい布置で、一気に筆が動いていく様子が快い。潤筆の沈潜したリズムに惹かれました。

(洋子評)



小林翠芳書

135×35cm

◆余白がよく生きる墨と線と形。確かな筆致がよみとれる。後半の処理を含め自らの世界の構築を。

(元信評)

◆太細の利いた線が冴え、伸びやかに躍り上る。かなが少し軽く感じるが、鍛練した漢字が映える。

(洋子評)

現代詩文書（八戸）市川紫泉

「俵万智のうた」



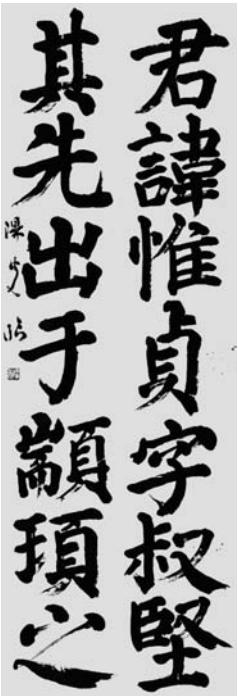
180×60cm

- ◆筆に墨の量が実際に上手に表現されていて詩に踊るような動きが出ている。細い線の表現・鋭さ見事。（倫子評）
- ◆超濃墨でリズムに乗って、洒落たムードを醸す。全体構成に字画の白も相まって白の美しい作品です。（洋子評）
- ◆歌の内容と作者が一体となって生まれた作品。左行の五、六字は作者が風になっているようだ。（翠風評）

市川紫泉書

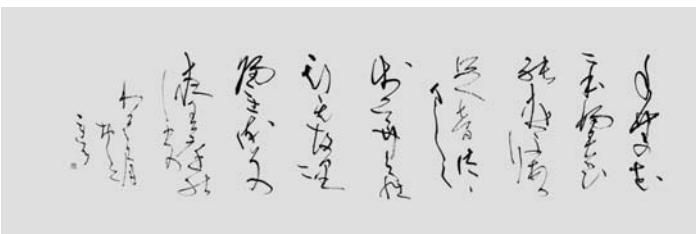
（陽陽）
岩崎陽光

「顔氏家廟碑」



180×60cm

- ◆波法の表現は実に見事。横画の筆の使い方に少し弱さが出ていている。線の間にとり方に一考を。（倫子評）
- ◆一見気力の充実した臨書だが、横画の起筆、收筆が少々甘い。紙に対して文字が大きすぎかと思う。（洋子評）
- ◆全体として重厚感溢れる臨書作品。原帖をよく観察するより充実した造形美の表現が見られたはず。（元信評）
- ◆中字臨書の多い出品作の中、欠点の目立ち易い大字にとり組んだ。「家廟碑」の持つ精神に更に肉迫を。（翠風評）



60×180cm

かな（志引）
鈴木朝夫

「ねむの花」

創作の部
〔漢字〕
前橋 碓井 弘
森地 東平 絹子
苑書 武山 櫻子
「かな」
うる 今関 心華

〔漢字〕
大雲 佐藤 希雲
「現代詩」
游水 荒川 空華

「前衛」
大雲 長島 優雨

四谷 野口 加奈

〔臨書の部〕
四谷 木原 尚子

「漢字」
千葉 小林 咲丹

うる 岩田 誠華

大雲 神谷 雲卿

華祥 安藤 華祥

華祥

総出品点数
72点

〔特選候補者〕

創作の部(47点)

漢字 12点

前衛 11点

かな 3点

臨書の部(25点)

漢字 23点

現代 21点

篆刻 0点

岩崎陽光臨

鈴木朝夫書

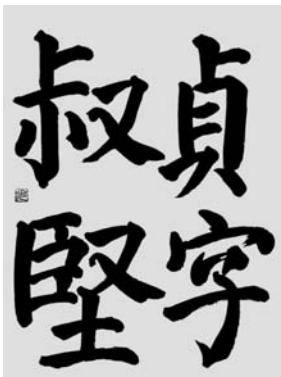
- ◆確かな運筆でリズム感溢れる作。構成力すばらしく、横作品の豊かな呼吸に心ひかれる。（元信評）
- ◆後半に山場を持ってきたバランスのよい横形式だが、一部やや動きが固い。漢字がよくかなに合う。（洋子評）
- ◆確かに運筆でリズム感溢れる作。構成力すばらしく、横作品の豊かな呼吸に心ひかれる。（元信評）

華祥	安藤	華祥	大雲	神谷	雲卿	大雲	岩田	誠華
華祥	安藤	華祥	千葉	小林	咲丹	千葉	小林	咲丹
華祥	安藤	華祥	うる	うる	うる	うる	うる	うる

漢字研究部
(顏氏家廟碑)

選評 竹田尚堂

今月のホープ作品



伊藤光子

漢字研究部 特選 伊藤 光子

な学び方を望みたい作も多数でした。古典は学ぶ者の姿勢に見合った応え方をしまう。古典に頭を垂れて教えを乞うという真摯さが大切です。「家廟碑」からは、直筆蔵鋒・向勢の結体・縦画とハネ(趯)・波法(蚕頭燕尾)など顔法の特徴の習得は勿論必須ですが、謹厳で豊かな趣をも感得し、その表現の手法を学び取るに好適な古典です。

堅字叔其
惟貞君諱
叔堅字貞
惟貞君諱
叔堅

貞字叔堅
叔堅君諱惟貞
貞字叔堅君諱惟貞
其先出
惟貞

君諱
惟貞堅叔貞字
其叔堅字
惟貞君諱
叔堅字
惟貞君諱

千桂年
鶴子涼雪子

柏優花蒼萩綠
秀子泉洋茜水

葉桐絹潮紫香
方潤子汀蘭風

初桃久富久信
美
江華美子代代

か な 研 究 部
(一条摂政集)

選評 田 村 澄 子

今月のホープ作品

西澤彩峰

◎かな研究部総評

原寸よりやや大きく臨書して、次第に原寸に近づけるのもよいと思います。全体的には良くな書かれていました。只○○臨として、○○書は不可です。

かな研究部 特選 西澤 彩峰

京 案 淑

美虹香

星千道

和愛良

子江江

和祥舟

扇峰石

子石泉

A 前彩 蒼上竜澄秀竜松千蓮や華上やこ紅竹玉石高石竜遊
I 橋 陽 泉泉春水泉村葉紅ま祥泉まだ瑠璃扇松習井早雲
た石 澄陽うるか習春陽H 番秀

千葉 住 竜五紅硯
泉葉苑水 大高蓮Aは玉高小正千や竜幕、竜紅土千正や、大生広大誉苑大
阪崎紅1せ松崎汀華葉ま泉張、泉瑠氣葉華ま、雲大島阪田書阪

足立森森茂宮三松松本藤長橋根永戸田高高高泉鈴杉紫佐齊高黒北川金小小小
田田木澤嶋佐浦田村谷本津瀬井村玉山橋橘水木田雲藤藤武柳又本岡野野野

加守
龍陸真草敏白玉美昌久紅飛蓉宏博哲花賢雅龍智祥煌迷々玄竹春南萩理加萩
博子蘿抄子鈴江雲子雲龍江桂舟子皇雲良宇庄國日美之城蟹峠江美給都光

秀さつ
高陵
京千あ墨大秀た詢石秀 泉玉香う千玉を湘童廣翠奥た竜庄祐蘭大渡如秀華伏澄秀こ清昭澄
篠葉か官雪葉か島舟葉水会松松か南皇春田か泉鳥江興雲辺日木水様華春明胆が目日微春
千彩大生正大こ
多く阪だ
雲雲
葉葉

正澄書弘八正た生八昌英樹京詢蘭詢生正英幕初生広福東千泉大さ春高彩椿高東久青秀誠誉八硯華八岩誠生有正大遊生艸京竜華春游舟雲華か大街宛峰原橋扇鼎屬大華峰張香大島山峰葉会阪つ汀慶翠真總賀明和田街水祥街沼和大秋華阪雲大玄橋泉

134 渡若吉吉山安守森村官渠松増堀掘細深平林早浜秦橋橋野根永長中仲中中富積千近田田田高高高砂鈴鈴
名邊菜田種口鳴屋田山田下島岡田川江井村川澤山坂野木本本中沢本田井村西島澤尾田葉池丸中中橋木木
氏眞妃美喜美木千喜美木千喜美木千喜美木千喜美木千喜美木千喜美木千喜美木千喜美木千喜美木
略記信矩光藤律子沙順藤龍、樂美翠律佳魯法貴靜佳優深梅香喜日都喜雅惠萩雅光柳真美千汐幸代杏裕利多
略記治工子公裕造子了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了了